

【実践報告】

「教育実習Ⅰ（小学校）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 三 田 幸 司

1 はじめに

本科目は、小学校における本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に臨む学生に対して、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標としている。まず事前ガイダンスにおいてグループを構成した後、4月の全体会において、前年度までに履修した「児童の理解」、「学校教育の体験活動（小）」等における観察・参加実習での体験や、各教科教育法での学修内容を振り返り、教材研究や学習指導案作成の行い方などをより深く学ぶ中で、事前に取り組むべきことを明確にしておく。続いて、グループに分かれて教材研究・題材開発、模擬授業・事後協議に取り組む。また、空きコマなどを活用して、指導案等について担当教員から指導を受けたり学生同士で模擬授業の練習を行ったりする。最後に、全体研究授業（代表学生による模擬授業）と協議会を実施するとともに、全体会を行って後期の教育実習Ⅱ・Ⅲへとつないでいく。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前ガイダンス、全体会	1月～4月	<ul style="list-style-type: none">・2年次後期の1月下旬（今年度は1/22）に事前ガイダンスを行い、教育実習Ⅰの趣旨・スケジュールや春期休業中の課題などを確認し、グループメンバー及びグループごとの目標を決定する。・担当教員からのアドバイス（教材研究のポイント、教科書・指導書などの資料の活用法、指導案の提出・添削の方法など）、春期休業中の課題の提出、第1クール担当教員と模擬授業の打合せなどを行う。・担当教員による示範授業と協議会を体験するとともに、今後の取組についての打合せをグループごとに行う。・ループリック（授業評価票）を配付し、評価規準（基準）、評価方法について担当教員から説明する。
グループ別模擬授業	4月～7月	<ul style="list-style-type: none">・教材研究や題材開発に取り組み、学習指導案を作成する。担当教員と模擬授業に関する事前打合せを行う。模擬授業をするにあたり、事前に模擬授業の練習を自主的に行う。・グループごとに模擬授業と事後協議に取り組む。
全体研究授業、全体会、事後学修	7月～9月	<ul style="list-style-type: none">・代表者による模擬授業（模擬授業45分間×2、研究協議会40分間）を行う。・担当教員による激励、教育実習Ⅰの振り返り、課題（学習指導案のデータ・プリント、自己評価シートなど）の提出をする。・夏期休業中、グループ別で模擬授業に自主的に取り組み、後期の教育実習Ⅱ・Ⅲに備える。

3 活動の概要

(1) グループ及び担当授業科目（受講者総数95名）

全体会の必要回数や1回あたりの授業時間を考慮すれば、模擬授業は全10回、各回3本が理想であり、1グループあたりの学生数は10名となる。しかし、受講者数は昨年度から90名を超えており、加えて担当教員数が本年度は8名になったことから、学生のグループを八つに減らした。そのため、うち七つのグループが12名となり、模擬授業の回数も1回増の11回にしたものの、それらのグループでは1回の授業で4本の模擬授業を行う回ができてしまった。

模擬授業 グループ	1回め	2回め	3回め	4回め	5回め	6回め	7回め	8回め	9回め	10回め	11回め
A (12名)	国 語		体 育		社 会		社 会		図画工作		図画工作
B (12名)	体 育		社 会		図画工作		図画工作		算 数		算 数
C (11名)	社 会		図画工作		算 数		算 数		音 楽		音 楽
D (12名)	図画工作		算 数		音 楽		音 楽		英 語		英 語
E (12名)	算 数		音 楽		英 語		英 語		理 科		理 科
F (12名)	音 楽		英 語		理 科		理 科		国 語		国 語
G (12名)	英 語		理 科		国 語		国 語		体 育		体 育
H (12名)	理 科		国 語		体 育		体 育		社 会		社 会

2021年度以前は模擬授業を第3回から開始しており、本格的な指導が始まる全体会Ⅰから模擬授業開始まで2週間しかなく、学生の授業準備や教員の指導を十分に行うことが難しかった。この課題を解決するために、2022年度は第3回までを全体会として授業の準備や指導を充実させ、模擬授業をゴールデンウィーク明けの第4回から行った。しかし、昨年度と今年度は模擬授業回数を11回に増やしたことで、第3回から模擬授業を開始する計画に戻っている。

2022年度	2023年度	2024年度
(1) 4/14：全体会Ⅰ	(1) 4/13：全体会Ⅰ	(1) 4/11：全体会Ⅰ
(2) 4/21：全体会Ⅱ	(2) 4/20：全体会Ⅱ	(2) 4/18：全体会Ⅱ
(3) 4/28：全体会Ⅲ	(3) 4/27：模擬授業①	(3) 4/25：模擬授業①
(4) 5/12：模擬授業①	(4) 5/11：模擬授業②	(4) 5/9：模擬授業②
(5) 5/19：模擬授業②	(5) 5/25：模擬授業③	(5) 5/16：模擬授業③
(6) 5/26：模擬授業③	(6) 6/1：模擬授業④	(6) 5/23：模擬授業④
(7) 6/2：模擬授業④	(7) 6/8：模擬授業⑤	(7) 5/30：模擬授業⑤
(8) 6/9：模擬授業⑤	(8) 6/15：模擬授業⑥	(8) 6/6：模擬授業⑥
(9) 6/16：模擬授業⑥	(9) 6/22：模擬授業⑦	(9) 6/13：模擬授業⑦
(10) 6/23：模擬授業⑦	(10) 6/29：模擬授業⑧	(10) 6/20：模擬授業⑧
(11) 6/30：模擬授業⑧	(11) 7/6：模擬授業⑨	(11) 6/27：模擬授業⑨
(12) 7/7：模擬授業⑨	(12) 7/13：模擬授業⑩	(12) 7/4：模擬授業⑩
(13) 7/14：模擬授業⑩	(13) 7/20：模擬授業⑪	(13) 7/18：模擬授業⑪
(14) 7/21：全体研究授業	(14) 7/27：全体研究授業	(14) 7/24：全体研究授業
(15) 7/28：全体会Ⅳ	(15) 8/3：全体会Ⅲ	(15) 7/25：全体会Ⅲ

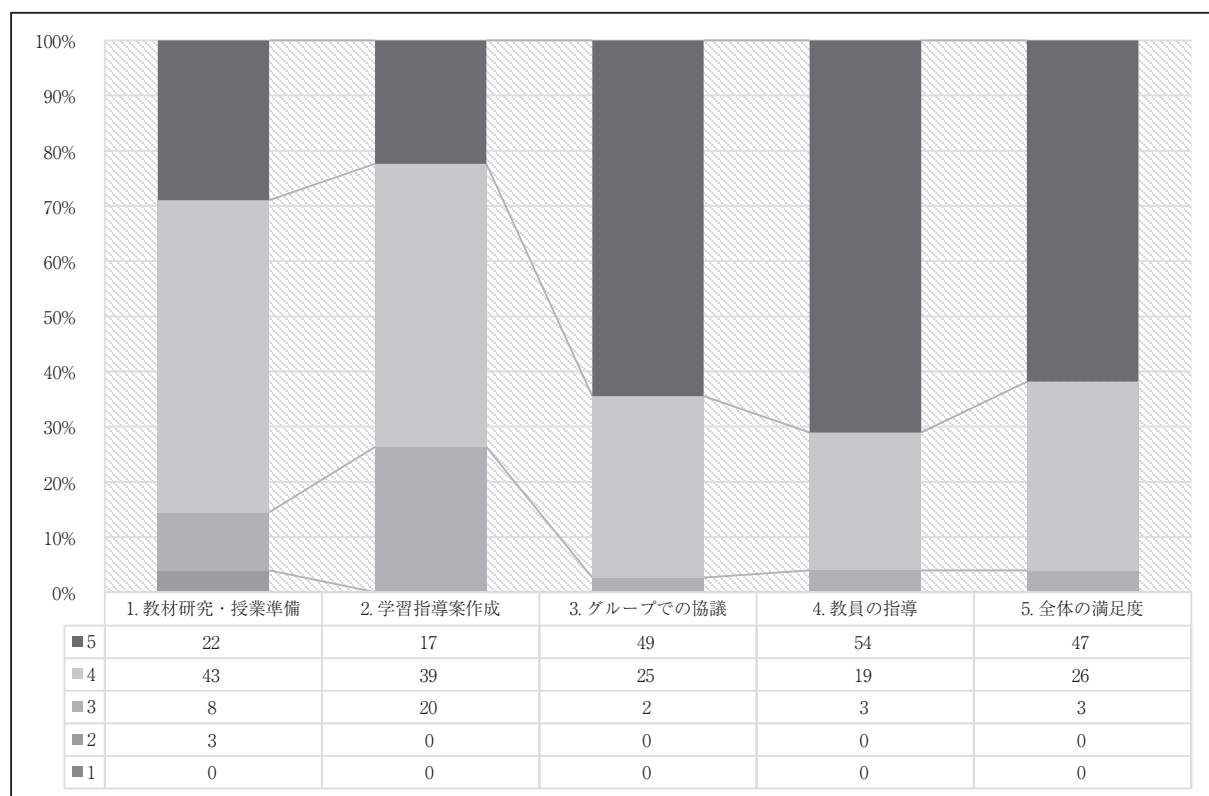
今年度の第13回は7月11日に実施する予定であったが、大雨のために休講となり、補講日が7月24日に設定された。これに伴い、第13回と第14回の実施日が変更となった。

事前準備や模擬授業、事後協議会では熱心に取り組む学生の姿が見られ、第14回に計画した全体研究授業で模擬授業を行う代表授業者を事前に募集したところ、10名の学生が立候補した。昨年度の全体研究授業は、まだ新型コロナウイルス感染拡大への懸念が残っていたことから10名の代表授業者を選出して五つの会場で行ったが、今年度は「一つの授業を多くの者が参観して協議する」というコロナ禍以前のスタイルに戻して、6名の代表授業者に絞り、全体を三つの集団に分けて実施した。

模擬授業 1	模擬授業 2
E グループ代表 算数	B グループ代表 社会
G グループ代表 理科	G グループ代表 外国語
D グループ代表 図画工作	F グループ代表 国語

(2) 教育実習 I 全体振り返り（自己評価）の集計結果（回答者76人，回答率80.0%）

最終講終了後、ユニバーサルパスポートを用いて調査を行った。「1. 教材研究・模擬授業準備」，「2. 学習指導案作成」，「3. グループでの協議」，「4. 担当教員の指導」，「5. 授業全体の満足度」の5観点についての満足度を5段階（5が最高，1が最低）で学生に評価させた。結果はグラフのとおりである。



【令和6年度・教育実習 I 自己評価票 集計結果（A～Hグループ）】

4 成果と課題

全体研究授業の代表授業者を各グループから選出する際には、1名に絞ることが難しいグループもあったほど受講生の積極的な姿勢が見られた。一方で、立候補した学生の希望教科に偏りがあり、より多くの教科の模擬授業を実施するために、あるグループからは2名の代表授業者を出すことになった。

今年度は、担当教員による学生評価のループリックを変更した。評価にあたっては、昨年までと同様に担当教員による学生の評価と学生による自己評価にループリックを活用し、担当教員による協議の上で最終的に評定を決定した。また、学生による自己評価結果（【令和6年度・教育実習Ⅰ自己評価票 集計結果（A～Hグループ）】参照）を昨年度までの結果と比較したところ、全項目ほぼ同じ傾向で受講生の満足度は全体的に高かった。一方で、学生による自己評価の項目1,2については、これまでと同様に満足度「5」の割合が他項目よりも低い傾向にある。これら二つの項目は一人ひとりの学生自身の取組に対する調査内容であることから、厳しく自己評価したと推察することもできるが、模擬授業までの指導案作成や授業準備の時間が短いと感じている学生が一定数いるのではないかと考えられる。模擬授業を第4回から開始したり、学年末休業の間に2回め以降の模擬授業の学習指導案も作成させておいたりするなど、改善策を検討する必要があると考えられる。

来年度も受講者数が90名を少々超える予定である。担当教員数が9名に戻れば学生のグループ数を九つにすることが可能になり、1グループあたりの学生数をほぼ10名に抑えられる。また、模擬授業の回数を10回にすることで、4月中に3回余裕をもって全体会を行い、ゴールデンウィーク明けの第4回から模擬授業を開始することが可能になる。なお、この場合の第3回の全体会については、後半の時間を、第4回に模擬授業を行う学生への事前指導や、2回め以降の模擬授業の準備に充てることで、指導案作成や授業準備の時間を少しでも長くできると考えられる。しかし、受講者数が90名を1名でも超えた場合は11名のグループができることになり、そのようなグループでは10回のうち3回は4本の模擬授業と協議を行うことになるため、模擬授業の回数を10回に戻すか11回のままでいくかについては慎重に検討することが求められる。

参考・引用文献

- ・三田 幸司「教育実習Ⅰ（小学校）の報告」（『広島文教大学 教職センター年報 2023年 第11号』広島文教大学教職センター，令和5年）
- ・三田 幸司「教育実習Ⅰ（小学校）の報告」（『広島文教大学 教職センター年報 2024年 第12号』広島文教大学教職センター，令和6年）